

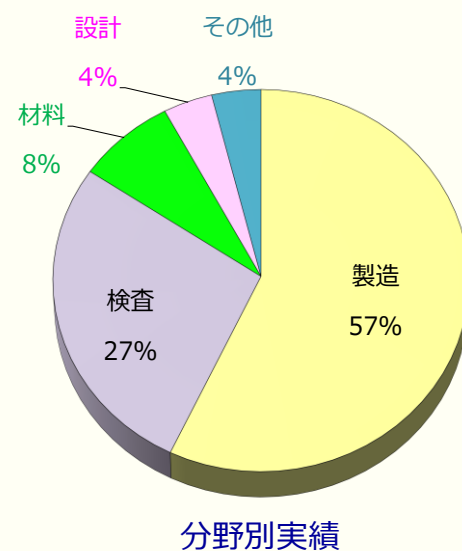
★サポート実績★

昭和49年から開始し

これまでに約130件の課題についてサポート。

☆サポートした課題の一例

- ・ライニングに関する水中乾式TIG溶接による当て板溶接工法の検討
- ・液化ガス用貯槽および管の溶接部の応力除去の要否の検討
- ・テンパービード法の適用性評価
- ・拡散接合法の適用性評価
- ・非破壊関連EN規格の調査
- ・未規定材料の規格化支援
- ・JIS Z 2355に対する薄膜UTの適合性評価
- ・デジタルRTの適用性評価
- ・原子力施設の高経年化対策のレビュー
- ・使用前溶接事業者検査（溶接）の運用事例集の作成 等



※一部のテーマについては下記URLから報告書をご覧ください。

<http://www.japeic.or.jp/gyoumu/kakusei/oshirase/oshirase.htm>

発電技検が実施するサポート業務及び一部の成果については下記の雑誌で発表しています。

1. 発電技検における確性試験の回顧と展望, 技術レビュー, Vol.10, pp. 40~44
2. 確性試験とは何か - その役割と意義, 火力原子力発電, No.700 Vol.66, 1, pp.38~42
3. 核燃料再処理施設の使用前溶接事業者検査（溶接）に係る新たな運用事例について, 火力原子力発電, No.774 Vol.72, 4, pp.34~37

お問い合わせ先

一般財団法人 発電設備技術検査協会
 規格基準室

TEL:03-5404-3874 FAX:03-5404-3882
 E-Mail:kikaku@japeic.or.jp

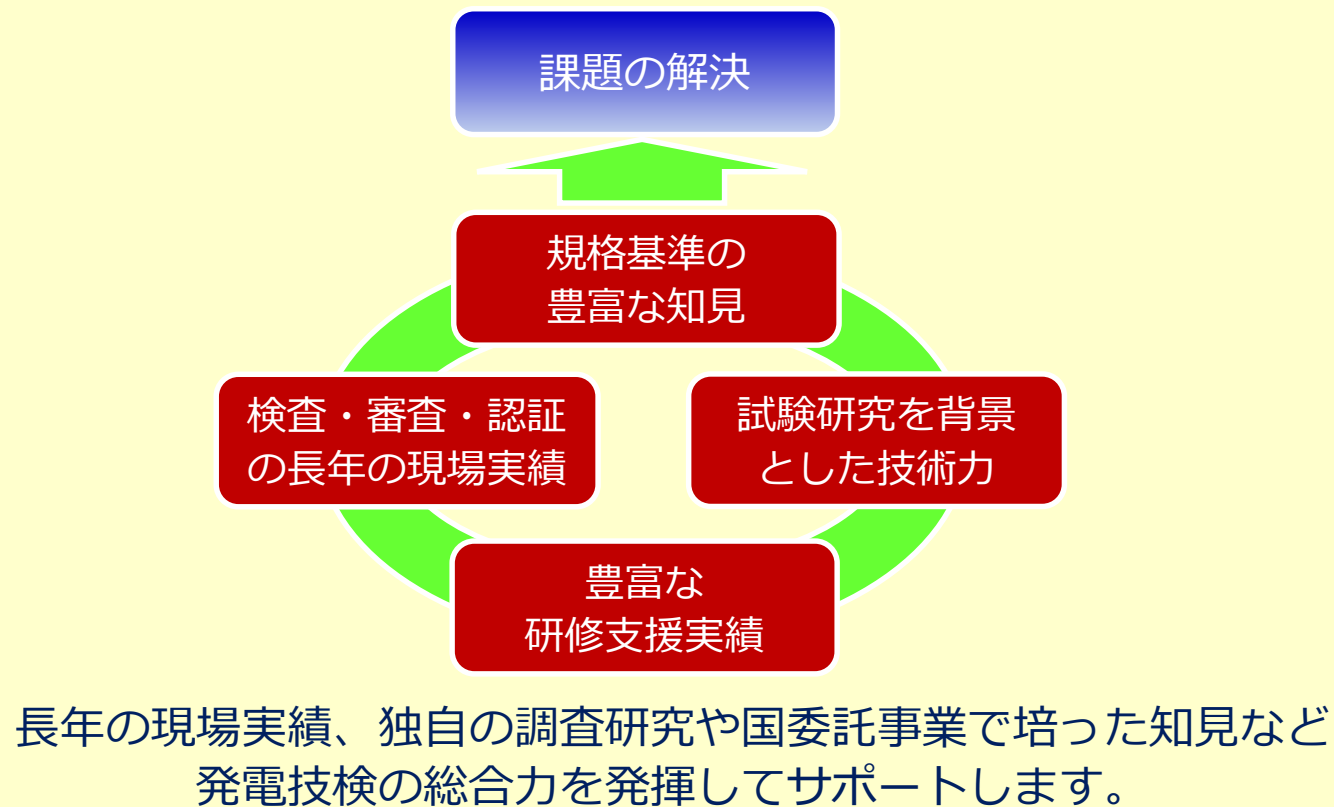
発電技検が提供する
 規格基準を活用した技術サポート

■ その課題の解決をサポートします ■

コスト削減や工期短縮を図る上で、技術基準に規定のない技術が有益となる場合があります。しかし、技術基準に規定のない技術は、事業者自らが技術基準に対する適合性を確認する必要があります。

発電技検は、このような適合性確認を始めとする事業者の様々な課題を解決するための技術サポート※1を行っています。

課題解決を支える発電技検の総合力



課題解決のためのスキーム

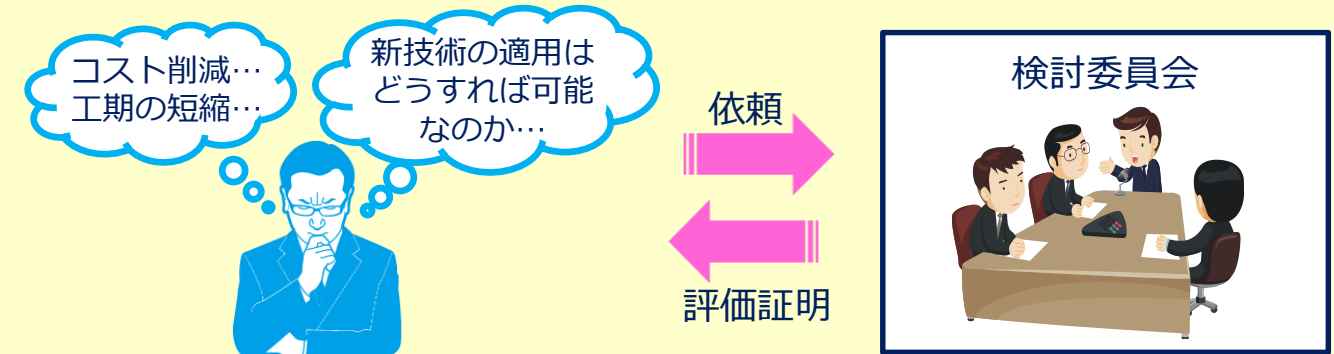
事業者の様々な課題を解決するため規格基準の知見を活用した次のスキームをご用意しています※2。

- 1) 技術基準や規格に規定がない新技術に関する技術的内容の検討評価・第三者レビュー（事例①②）
- 2) 技術基準や規格の根拠、国内外の規格基準の内容調査等（事例③）

これまでの技術サポートの事例

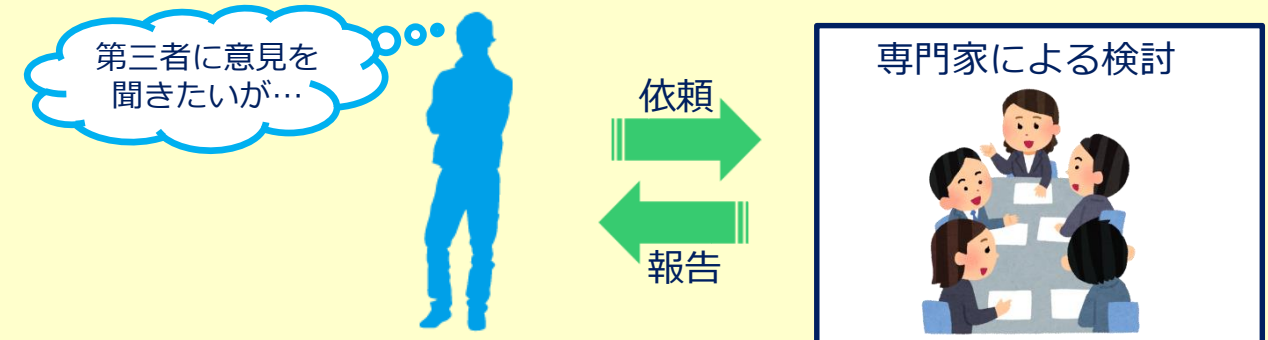
事例①：新技術の適用によるコスト削減・工期短縮

- 設備のリプレースを回避できた事例や、検討結果が民間規格の規定として反映された事例があります。



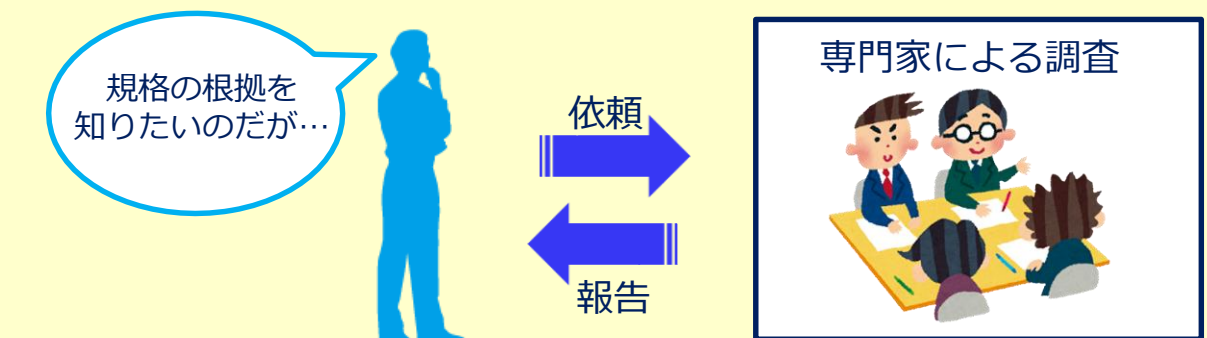
事例②：第三者から意見を聞きたいけれど…

- 第三者として適用可能性を評価した新たな補修技術が実機の維持管理に適用された事例があります。



事例③：規格基準の根拠を知りたいけれど…

- 海外火力発電設備に対する規制制度やASME B&PV Code等の海外規格に関する調査事例があります。



※1 技術サポートの期間等は内容に応じて個別に相談させていただきます。

※2 JSA RCES規格開発エキスパートを始め、JISやASME等の規格作成委員、NBBI/AI、AWS/CWI、工学博士、技術士等の資格を持った専門家が担当いたします。